

(1) 報告（事務局）

【平成27年度体力テストの結果】より

- 平成27年度の多治見市立幼稚園・保育園・小学校・中学校の体力テストにおける結果の報告。春の体力テストと、秋の体力テスト（各学校の重点より3種目選択）の比較
- 過去5年間（平成23年度～平成27年度）多治見市立幼稚園・保育園・小学校・中学校の体力テストの各種目の経年変化の報告
- 平成23年度小5児童と平成26年度中2生徒（同集団）の体力テストの全国平均との比較
- 全国平均を上回る種目が増えたことの要因についての分析の報告

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】の質問紙の結果より

- （多治見市の今後の課題と関連して）運動能力は全国水準に並んできたと言える一方で、運動に対する意識に課題が見られる。
- 「運動が好き」「体力に自信がある」「体育の授業が楽しい」といった意識が、全国平均に比べ、低い傾向がある。
- 「運動が大切」という意識は、全国に比べ高い。
- 運動の大切さは感じているが、運動経験をする中で、満足感や達成感を十分に味わえていないのではないか。

【意見交流】（今後の体力向上の方針のありかたについて）

- 運動の楽しさは、成長にともなって個々の基準が質的な変化をする。小さな子どもの頃は、純粹に動くことを楽しんでいただけだったが、できた・できないが評価の基準にかわっていく。
- 運動が大切という気持ちが高いということは、できるようになりたい、自分を変えたいなどという願いをもっているということ。
- 生涯運動を楽しむことができる人となるためにも、体育の授業の在り方や、運動への取り組ませ方がポイントとなる。
- おそらく多治見市の運動クラブへの加入率は低い傾向にあると考えられる（調査をしていなのではっきりとは言えない部分があるが…）。それは、競技性の高い種目が多く、楽しんでできる種目のクラブがまだ少ないことが理由の一つとして考えられる。
- 「運動が大切」という意識の中身に目を向ける必要がある。健康・ダイエットなど、保健の知識として、理論として大切に思う気持ちと、運動が人生を豊かにするという視点で大切に思う気持ちは、根本的に質が違う。大切に考えている意識の中身を捉えた取り組みが必要かもしれない。
- 「運動への意識調査」をしたらどうか。どんなところで楽しいと感じている（辛いとかんじている）か、どんなところで有能感を（劣等感を）

感じているか。それをもとにどう指導していくかを検討していくとよいのではないか。

- 年に1回、同じ調査（アンケート）をし続ける。体育科の専門的な意識だけでなく、一般的な意識の変容を捉え、指導改善に生かしていくとよいのではないか。
- 「運動が好き」という意識は、全ての運動が好きという意味ではない。好きな運動もあり、苦手な運動もある。運動好きの意識の核になるものができるとうい。
- 運動が好きな人となるためにも、幼少期に十分に運動の楽しさを味わっておくことが大切。子どもたちが「楽しい！」と感じた瞬間はどんなときかを捉えて、取り組みを工夫していくとうい。

(2) 運動あそびのアイデア集づくりについて（進捗状況の報告）

- 小学校・中学校だけでなく、幼稚園・保育園からも情報をいただき、幅広いアイデア集になりつつある。（現在40例を超えている。）
- 平成28年度に編集し、年度中の発行をめざして取り組む。

【意見交流】から

- 夏の研修（教師塾セミナー）で、集まった先生同士が意見を出し合って、運動遊びのアイデアをまとめたものも加えていくとうい。そうすると運動の多様化の工夫や、動きへの意味づけの理解などの研修も同時に進められる。
- 先生方が自分で考えたことは使えるものになる。考えたという経験が、アイデアを応用し、実態に合わせた運動遊びの指導につながると考えられる。
- 道具とからめたアイデアづくりの講座を開催することで、道具と運動の多様性を結びつけたアイデアが生まれる可能性がある。
- 白紙のページ（新たにアイデアを書き込むページ）を数ページ準備しておくとうい。そこに書き込まれたことをもとに、数年ごとに改正・改訂を行っていくと、よりよいアイデア集に高まると考えられる。
- データーベース化して、だれでもいつでも使えるものにできるとよい。
- 編集の仕方は、さらに工夫が必要。どう組み合わせるかを考えたい。運動の特性でまとめる、使う道具でまとめる、対象年齢でまとめるなど、ねらいによって、まとまり方が変わる。再度、全てのアイデアを出して、まとまりを作ってみる必要がある。